

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	西淀川区
学 校 名	柏里小学校
学校長名	加藤 稔久

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・柏里小学校では、第6学年41名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科における本校の平均正答率は61.0%であり、大阪府の平均正答率66.0%を5.0%下回る結果であった。算数科においては、本校の平均正答率は67.0%で、大阪府の平均正答率63.0%を4.0%上回る結果であった。

国語・算数では、昨年度大阪府の平均正答率をそれぞれ2.0%、3.0%下回る結果で、今年度は算数で上回ることができた。結果を受けて、今後はこれまで実践してきた教育活動を継続し、一層力を注いでいく。特に、基礎学力の向上を目標に、教員の研修や研究授業を実施していくこと、ICT機器を活用した学習を導入していくこと、日常生活の基本的習慣を身につけさせること等、チーム学校として一丸となって取り組み、今後につなげていく。

## 分析から見えてきた成果・課題

## 教科に関する調査より

〔国語〕令和2年から令和5年まで校内の研究教科を国語科として、全教科にわたる「主体的・対話的で深い学びの推進」の基盤となる言語活動の推進に視点をあてて研究を重ねてきた。また、これまで読書環境の充実、読書活動の推進、「第一教育ブロックの学力向上推進事業」の一環として実施している漢字検定に主体的に取り組むなど、国語科の基礎となる学力を身につけさせること、児童の主体的な学びを支援すること等、全教職員が共通理解のもと継続してきた。今年度の調査結果をみると、学習指導要領の内容では、思考力・判断力・表現力の中の「書くこと」では、大阪府平均正答率より12.9%、全国平均正答率より10.4%上回り、1人1台端末を使つての発表形式を授業に取り入れたことで、力がついてきたと思われる。問題形式でも、記述式の正答率が他よりも正答率が高くなっている。また、無回答率はどの問題においても大阪府平均、全国平均を下回り、粘り強く最後まで問題に取り組んだ姿勢がうかがえる。今後は、「書くこと」以外の領域で成果がでるよう、習熟度別少人数学習や学習の場の工夫等で基礎学力の向上を一層めざしていく。

〔算数〕算数科においては、本校の平均正答率は、大阪府平均正答率、全国平均正答率をもそれぞれ4.0%、3.6%上回る好成績であった。学習指導要領の全領域で大阪府平均正答率も全国平均正答率も上回っており、特に「図形」領域では、大阪府平均正答率、全国平均正答率を9.2%、8.1%上回っている。これは習熟度別学習や少人数指導、「学力向上支援チーム事業」の一環として実施している学びサポーターの活用等に力を注いできた成果があらわれた結果である。しかし、算数が好きだという児童の割合は大阪府平均や全国平均を下回っている。反復学習や基礎基本定着の徹底などを積み重ね、興味・関心が高まる授業づくりが重要である。今後、一層の充実を図っていく。

## 質問紙調査より

今年度も自己肯定感や自己有用感に関する質問に関して、高い割合を示している。「自分にはよいところがあると思いますか」「将来の夢や目標を持っていますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問には、最も肯定的な回答の割合が全て大阪府平均や全国平均を上回っている。また、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の質問には大阪府平均、全国平均同等以上の結果となっている。これは家庭での基本的生活習慣が身につけている結果だと捉えている。さらに、学校生活にも満足度が高いこともうかがえる。「学校に行くのは楽しいと思いますか」「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」「先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」のどの質問に対しても最も肯定的な回答が大阪府平均や全国平均を上回っている。家庭生活・学校生活の安定から、自分自身のことだけでなく、周りの人に気づかいができ、周りの人の役に立ちたい、周りの人と良好な関係を結びたいというコミュニケーション能力を持って、社会的に良好な関係を強く求めていると考えられる。これは、ここ2年の良い傾向である。

一方で、図書館の利用回数や利用時間、新聞を読んでいるか、読書は好きか、塾や家庭教師の先生に教わっているか等の質問には肯定的な回答が低く、さらなる高みをめざしていろいろな学習がしたいという意欲は低い。これは、学習＝学校の授業といっても過言ではなく、学校での学習が重要になってくる。今後、「学力向上支援チーム事業」の一環として実施している学びサポーターの活用やスクールアドバイザーによる月2回の学校訪問による授業研修、図書館司書などを利用して教員の授業力の向上、個別最適な学びの推進を進めていく。

## 今後の取組(アクションプラン)

「主体的・対話的で深い学びの推進」に向け、これまでの教職員の共通理解、一体となった指導体制のもと、子どもの学びの環境を整えることの継続を図る。主体的な学びと言語活動の推進に向け、読書環境は整ってきているため、より主体的に読書する子どもの育成を図る。また、基礎的・基本的な学力の定着が厳しい状況の子どもたちへの支援・指導を主眼として、昼のチャレンジタイム、放課後学習の改善に取り組むとともに個に応じた課題解決学習の構築と主体的な学び、家庭学習が定着するようにしていく。そのほか、習熟度別少人数学習を中・高学年で継続、ブロック化による学校支援事業、西淀川区の学力推進事業・校長経営戦略支援予算による漢字検定(4・6年生)、英検ジュニア検定(3・5年生)の継続、及び新聞を活用した読解力と学びに向かう力の育成等を踏まえ、子どもたちの主体的な学びへとつなげていく。